

# 養氣軒だより

Vol.01 2007 Autumn

## 目次 contents

- top インフォメーション
- 02 診療・外来紹介  
循環器科紹介/睡眠外来について
- 03 コラム・トピックス  
NASH/絵画寄贈
- 04 外来診療日一覧表

## information インフォメーション

### 「地域医療支援病院」についてのお知らせ

～当院は「かかりつけ医」と連携して診療を行います～

- ・当院は「地域医療支援病院」として、「かかりつけ医」からご紹介いただいた患者さまの診療を行います。
- ・当院で治療方針が決定し症状が落ち着いた患者さまは、「かかりつけ医」の先生へ治療の継続をお願いしています。
- ・「かかりつけ医」へ診療をお願いする際は、当院担当医がこれまでの診療内容を連絡いたします。

・再度当院での診療が必要になった場合は、「かかりつけ医」からご紹介をうけ、いつでも当院で診療いたします。

皆さまのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

#### \*「かかりつけ医」とは…

患者さまのご近所の診療所や医院・クリニックで、患者さまの日常的な診療、ご家族を含めた健康相談、在宅療養の援助等をおこなっている医師のことです。



### 当院の外来診療についてのお知らせ

1. 当院の外来診療には、待ち時間を短縮するために予約制度を導入しています。

#### <初めて診療を受けられる方>

- 1) 「かかりつけ医」の先生から紹介いただく場合、「かかりつけ医」を通して診療日時を予約することになっています。
- 2) 「かかりつけ医」から診療予約がない場合や、紹介状をお持ちでない場合、受付された順番となります。

\* 紹介状をお持ちの場合、初診料が3150円安くなります。

#### <再来予約のある方>

- 1) 診療終了時に、担当医が次回の予約についてお伝えし、予約日時を記載した予約カードをお渡しします。

2) 診療当日は、受付された順番ではなく予約時間の順に診療します。

3) 予約時間よりも30分以上お待たせした場合は、看護師または外来受付へお知らせ下さい。

4) 予約日時の変更は、外来受付へご相談下さい。

5) 予約日以外に受診された場合は、原則として通常の外来担当医以外の医師が診察します。

2. 救急の場合は、救急診療担当医が速やかに診療します。

3. 当院は長崎大学と京都大学の教育指定病院です。担当医の指導の下に医学部生が外来診療に立ち会い、診療実習を行うことがあります。ご協力をお願いします。

\* ご不明の点は、担当医が「地域医療支援センター0956-82-3121 (内線 2122)」担当者へご相談下さい。

### 軽食・喫茶「カサブランカ」が営業中です

玄関を右に曲がり、放射線科から売店を通り過ぎ、絵画が展示された廊下を進むと、軽食・喫茶「カサブランカ」があります。病院玄関からちょっと離れたところにありますが、面会に来られた方々、当院で働く職員にとって憩いの場となっています。

お昼のおすすめメニューは、とってもリーズナブルな日替りランチ(写真)や、ビーフコロケ定食(450円)、ささみシソ巻き定食(550円)が売れ筋です。この時期「カキフライ定食」(600円)はいかがでしょう？

一度ご賞味下さい。皆様のご来店をお待ちしております。



軽食・喫茶 カサブランカ  
営業時間 平日10:00～15:00  
(定休日 土日祝祭日)  
写真は、日替わりランチ(450円)





# 循環器科紹介

吉田 和朗(循環器科医長)

本年5月から当院循環器科医長として赴任しました。先生方には日頃から良好な病診連携を頂き大変お世話になっております。

永らく勤務されていた品川副院長が6月で退職され、現在小生を含む3名のスタッフで循環器科診療に当たっております。新体制となりました循環器科ですが今後とも宜しくお願い致します。

先生方もご存じの通り循環器科分野は日進月歩でありup to dateが大変なところです。虚血性心疾患領域ではインターベンション治療の有用性はすでにほぼ確立されており、当科でも適応のある患者さんに対し積極的に施行しております。また危険因子の治療や運動や禁煙・食事療法など生活習慣改善も誠に大切であり、最近ではLDLを下げることで冠動脈粥腫の改善を期待する積極的脂質低下療法も注目されております。心不全の加療では利尿剤・ジギタリスを中心とした治療から血管拡張剤・ベータブロッカーの導入・強心剤の併用・心拍再同期療法など治療の手段が大きく広がっております。更に早期の心臓リハビリや生活指導が有用性も確立しつつあります。

不整脈のトピックとしては近年新しい薬物が次々と登場しており薬物治療の範囲が広がるとともに、Burgada症候群等に対する埋め込み型除細動器などの非薬物療法も進歩してきました。罹患率の高い心房細動の取り扱いもガイドラインが示され、エビデンスに基づいた治療が確立しつつあります。高血圧治療の分野でも治療薬の充実や大規模臨床試験を踏まえたガイドライン提唱により、病態に合わせた治療法の選択が重要となっております。最近提唱されているCKD(慢性腎疾患)やメタボリック症候群の治療においても降圧療法は重要な位置を占めますので、今後ますますきめ細かな管理が求められています。

このようにめまぐるしく変化する循環器科領域ですが、常に最前線の知識と知見を活かして地域の期待に応えるべく今後とも努力していく所存です。何かありましたらいつでもお気軽に小生または当科スタッフにご連絡下さい。今後とも宜しくお願い致します。

よしだ・かずろう

1989(平成元)年長崎大学医学部卒。日本循環器学会専門医、身体障害者福祉法指定医、産業医、日本内科学会専門医



## information [診療・外来]

インフォメーション

### 睡眠外来について

当院で睡眠外来を開設して、早いもので4年以上を経過しました。この間、週に1回程度の頻度で夜間睡眠時無呼吸の検査を行なっております。

本来、睡眠時無呼吸というのはどの科にかかって良いかかわからない、いわゆる境界領域の病気でした。日本中の病院で睡眠の検査が行われておりますが、循環器科、耳鼻科、歯科、神経内科、精神科などの診療科がこの疾患を担当しております。当院の睡眠外来の特徴は、呼吸器科の医師が検査技師と協力して検査・治療を行っていることです。呼吸器科は人工呼吸器の扱いに慣れており、この疾患の主な治療法である「鼻マスクを使用するCPAP治療」をスムーズに行なうことができます。現在のところ「いびき」を訴えて受診される方が一番多く、時には「寝ているときに息が止まっている」とか、「昼間にすぐ寝てしまう」といった症状で受診されます。

このような方に検査をしますと、当院では約50%の確率で「治療の必要がある睡眠時無呼吸症候群」がみつかり

川上 健司(呼吸器科)

ます。これまでも、重症例では病気を放置すると突然死や余命が短くなるという報告がありました。

最近になって、中等症以上の睡眠時無呼吸を治療しないで放置した場合には、脳梗塞や脳出血あるいは心筋梗塞といった病気になる確率が明らかに高いということがわかってきました。

日本には200万人くらいのこの病気の人がいるとされていますが、現在治療中の人数は12万人にすぎません。いろいろな合併症を起こさないために、いびきを指摘された方は早めに検査を受けるようにおすすめします。

かわかみ・けんじ

1978(昭和53)年長崎大学医学部卒。長崎大学医学博士、日本呼吸器学会専門医、日本感染症学会専門医、日本内科学会専門医、ICD、認定産業医





生活習慣の欧米化に伴い、肥満人口は近年増加し成人男性では25%、また50歳以上の女性でも25%にのぼるといわれています。肥満の増加に伴い、脂肪肝の有病者も増加し、人間ドック受診者の脂肪肝有病率は30%にのぼるとの報告もあります。

脂肪肝は、大きくアルコール性と非アルコール性に分けられます。非アルコール性脂肪肝は以前は病態が進行することはないと考えられ、あまり注目されていませんでした。しかし近年、非アルコール性脂肪肝の一部(約10%)に飲酒歴がないのにアルコール性と同様な肝炎が起こり、肝硬変・肝癌に進行するものがあることが明らかになり、NASH(非アルコール性脂肪性肝炎)と呼ばれています。脂肪肝やNASHの原因はアルコール多飲や薬剤のほか、肥満・糖尿病・高脂血症などであり、メタボリックシンドロームと密接な関係があります。

NASHの診断は通常の血液検査、腹部超音波検査などの画像検査では困難で肝生検による病理組織検査が必要です。NASHの予後はまだ不明な点が多いのですが5~10年の経過で5~10%が肝硬変に進行するといわれています。治療は、肥満、糖尿病、高脂血症などがある場合にはまずその治療を行うこと、つまり食事療法と運動療法が最も重要であると思われます。

内臓脂肪の蓄積は単に肝臓に脂肪が沈着する脂肪肝というだけではなく、飲酒もしないのに肝硬変、肝癌へと進行するNASHという病態へ進行する可能性があります。また、自覚症状に乏しいため知らないうちに肝硬変へ進行していることもあります。肥満、糖尿病、高脂血症などで脂肪肝のある方は肝臓の精密検査をされてはいかがでしょうか。🍀

加藤 浩之(消化器科医長)

## topics 絵画寄贈

トピックス

当院入院中の患者様と親交のある、画家の田中道太郎様から患者様の癒しになればとの御厚意で絵画を二点寄贈頂きました。中央廊下に展示させて頂いておりますが、患者様やお見舞いの方々の心を和ませています。田中様からのコメントを紹介いたします。🍀

『松尾司さんとの出会いは、昭和40年頃、長崎国体山岳競技の強化合宿で、北アルプスの山々と一緒に旅したのが始まりだったと記憶しております。その後、福井大会では彼は高校の監督で、私は一般の監督として一緒に出場しました。スリリと背が高くスタイリッシュで、心優しい人で思い出に残る楽しい数々の山旅でした。』

この度の二点の作品は、一昨年秋にネパールの山旅でタンボチュという標高3,870メートルの集落から見る朝焼けのエベレストをスケッチしました。もう一点は有明海に浮かぶ雲仙岳を小長井町付近より昭和60年頃、諫早干拓工事が始まる前にスケッチしましたが、今はもう目には出来ません。干潟には潮待ちの漁船が点在したのんびりした展望で潟の上には、トビハゼやムツブロウ、潮招きカニが無数に遊んでおりました。

日一日と貴重な自然が消えてゆくことは淋しいかぎり、せめて絵に止めておきたいと思っております。』



有明海の干潟と雲仙岳



目覚めゆく山ひだ エベレストとアマダプラム